

7：当院（静岡県沼津市）における4週以上続く咳嗽を主訴として受診した患者の検討

雨宮徳直¹，藤村政樹²

（聖隷沼津病院内科¹，金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学・血液・呼吸器内科²）

〔目的〕咳嗽は日常臨床で多く遭遇する症状である．急性気道感染症で説明のつかない慢性咳嗽を日常臨床で多く経験する．第1線の診療施設における4週以上続く咳嗽の原因疾患についての現状を調査した．

〔対象と方法〕2003年2月から2004年7月までに，4週以上続く咳嗽を主訴として聖隷沼津病院内科外来を受診した95人を対象とした．アトピー咳嗽（AC），咳喘息（CVA），副鼻腔気管支症候群（SBS），かぜ症候群後咳嗽の診断は慢性咳嗽の診断と治療に関する指針にしたがった．

〔結果と考察〕AC 12人（12.6%），BA 17人（17.9%），BA+SBS 1人（1.1%），CVA 2人（2.1%），COPD 4人（4.2%），IP 1人（1.1%），LK 3人（3.2%），SBS 15人（15.8%），ACE-Iによる咳嗽 1人（1.1%），かぜ症候群後 18人（19.0%），不明 20人（21.1%），マイコプラズマ気管支炎後 1人（1.1%）であった．不明の理由としては，外来に未受診となったためが12人（12.6%）と最も多かった．その一方で6人（6.3%）は咳嗽の消失を確認するも確定診断に至らなかった．慢性咳嗽の臨床の難しさを痛感した．